

平成24年8月9日

京 都 市 長 様

京都市ごみ収集業務評価委員会
委 員 長 本多 滝夫

平成23年度の業務履行に対する評価・意見書

京都市ごみ収集業務評価委員会は、平成23年12月26日の第6回評価委員会において、平成23年中に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などにに基づき、平成23年度の業務履行に対する評価を行った。

アンケート調査結果によると、昨年度から評価が向上した項目も多く、取組の効果が表れていると思われる。

しかしながら、「不適正排出物へのシール貼付」については、職員のセルフチェックによる評価が低く、「安全運転の徹底」については、セルフチェック結果とアンケート調査結果に乖離が見られるなど、原因を解明し改善すべき項目もある。これらの項目については、現場と共通認識を持つとともに、改善に向けた取組を進められたい。

以下に、検討の結果、明らかとなった課題に対する意見を付すので、ごみ収集業務の改善に活用するよう努められたい。

意見1：不適正排出物へのシール貼付の徹底とそれに伴う啓発

不適正排出物へのシール貼付は、市民に適正なごみ排出を促すための最も有効な啓発方法の一つであることから、シール貼付地域や枚数などのデータを有効に活用し、効果的かつ効果的な啓発を実施されたい。

意見2：市民に信頼される運転に向けての意識改革

アンケート結果においてはごみ収集車の運転について、スピードの出し過ぎ、無理な車線変更等の運転を見たことがあるという意見が3割あった。一方、セルフチェック結果においては、おおむね安全運転ができているとの自己評価がなされており、市民感覚と乖離が生じている。

ごみ収集車は、収集作業中にエンジン回転数を上げることや、車両の構造上、威圧感があり、自家用車等と比較して、実際の運転よりもスピードが出ている等の印象を持たれやすい。事実、デジタルタコグラフの導入により、スピード超過等は減少している状況にも関わらず、市民から「スピードが出過ぎている」、「乱暴な運転が目立つ」などの意見が依然として多くある。

まず、運転手にこの事実をしっかりと認識してもらうことが必要である。そのうえでアンケート結果を踏まえ、常に市民目線・市民感覚を意識した運転マナー及び移動中の収集員のマナーの向上を図られたい。

意見3：ごみ減量に関する施策の広報と分別に対する啓発の充実

ごみ減量に関する施策として実施している、「使用済てんぷら油の拠点回収」については概ね市民に認知されてきたが、「コミュニティ回収」や「エコまちステーション」などについてはアンケート調査結果において認知度が低い状況にある。

また、排出した資源物の再利用に関する情報については、アンケート調査においても「知りたい」という声が多く上がっており、市民の分別意識の向上には、より丁寧な説明が必要である。

今後、「ごみ半減目標」の達成に向けては、エコまちステーションや減量指導業務員を中心に、地域状況を把握のうえ、ごみ減量・分別に資する様々なアプローチ方法の検討、地域啓発の充実を図っていくことが必要である。若年層に対しては、ごみ収集に関する意識把握や排出に関する啓発について、一層努められたい。